

樹木だより

はいまつの芽生え

翼のない大きい種子が土の上に押し上げられ、セーターを脱ぐようにして緑濃い子葉が種皮から抜け出てきた。ハイマツの輪生した子葉は10枚くらいあって、やがてその中心から5葉1束の本葉が出てくる。このとき、根は地上部（苗条）の3倍も深く伸びていた。

高山帯において、ハイマツは実生繁殖よりも、匍匐した幹からの不定根発生という栄養繁殖が盛んで、この方法で厳しい環境に耐えるらしい。この種子はホシガラスの主食で、冬には貯蔵されるという。それにしても、千里の道も1歩から、あのハイマツブッシュも1粒の種子の芽生えからにちがいない。苗畑仕事はこんな想いを与えてくれた。

（道北分場 斎藤新一郎）

